

湘南学園だより

No.114

発行
湘南学園
だより
編集部

希望を紡ぐ創立八〇周年に

二〇一三年まであと二年

熱い議論が始まった

理事長 高尾 信

1933年（昭和8年）4月、湘南学園は、当時の公立学校にあきたりない保護者・教員の手で独自の教育をもとめる私学として小学生2名、幼稚園児3名を迎えて産声をあげました。

それから78年、戦争等の難局を乗り越え、1947年中学、1950年高校を開校し、現在では幼小中高合計1928名の男女共学

の総合学園として発展してきましたが、いよいよ2013年には創立80周年を迎えることになりました。あと2年となったこの創立80周年をどのように迎えたらいいか、今、湘南学園では、理事会・教職員・PTA・同窓会・後援会が参加する創立80周年実行委員会がスタートし、熱い議論が始まっています。



創立80周年記念事業の1つ 貝殻の形をモチーフにした3階建て小学校新校舎のステキな外観。

希望を紡ぐ80周年に 節目をバネにして飛躍を

2008年のリーマンショックの影響は、経済状況の悪化をもたらし、高い学費に依存している私学を直撃しています。さらに新たに2010年から始まった公立高校の授業料無償化や2011年度からスタートする公立小学校の少人数学級計画は、公立志向を強め、私学の募集困難が加速しています。

湘南学園の2011年度募集では、中学では減少傾向の応募者を増加に転じて定員を確保できたものの、幼稚園3歳児で12名、小学校では38名の欠員を生じています。

このような厳しい現実を直視しながら、建学の精神を生かした湘南学園の教育を発展させるために、学園関係者が互いの立場を尊重しつつ、80周年の節目をバネにして、みんなで未来への展望を切り開き、希望を紡ぐところに、創立80周年にとりくむ根本的な意義があります。

創立80周年実行委員会が スタートしました

準備会をへて2010年9月25日(土)、第1回実行委員会が開かれ、実行委員長に理事長、副実行委員長に学園長を充て、理事会・教職員・PTA・同窓会・後援会より各々常任実行委員が選出され、「チーム湘南」一丸の取り組みとしてスタートしました。これは、湘南学園が総力をあげて80周年を迎えることのできる体制が確立したという点で画期的な意義をもつものです。

この背景には、昨年6月、チーム湘南学園として取り組んだ80周年プレ企画の森稔氏の講演会の成功があります。

第1回の実行委員会では、主に80周年を取り組む意義、記念事業の検討が、それまでに実施していたアンケート結果をふまえて検討されました。

記念事業については、すでに80周年記念事業として取り組まれている小学校の改築工事が1ページの写真のように美しい外観が見れるところまで工事が進んでおり、3月18日には第1期工事が終了し

て、4月以降新校舎での勉強が始まりますが、それ以外に施設設備関係で何があるのかの検討がはじまり、80周年誌の発行、記念行事等の検討に入っております。

アンケートでは、記念行事として取り入れてほしいこととして、「幼小中高大運動会」や「芸術鑑賞・コンサート」、「大規模なバザー」、「幼小中高全員の子ども・教職員の入った航空写真」、など様々なアイデアが出され、とくに子どもたちが参加できるものをというご意見が多数だされました。

また、すすめ方としては、「幼小中高の連携を大切にしてほしい」、「総合学園としての特色を外部にたくさん発信したい」等の貴重なご意見が寄せられています。

2011年度のプレ企画 作品コンテストや講演会も

実行委員会は、12月までに合計4回開いてきています。

まだ、一つひとつのことに議論百出という状態ですが、この過程で相互理解が大変深まってきています。この間、2011年度プレ

企画として、「こんな湘南学園になってほしい」という願いをこめたポスターや作文などの作品コンテストを新年度に企画することになっていきます。

また、昨年6月に開かれたプレ企画・森稔氏の講演会をさらに発展させて、今年も、7月初旬に同窓会の「松ぼっくりフォーラム」と中高の特別活動をタイアップした形で卒業生のお話を聴く講演会をやりたいと検討をはじめていきます。2011年度のプレ企画も楽しみにしていただければ幸いです。4月以降、実行委員会は、いくつかのパートに分かれて、具体化のための作業を始めることとなります。



心をゆきさぶる合唱が会場に響く

豊かな表現活動を育む湘南学園の学校行事



学園長 仲本 正夫

鎌倉芸術館という音響効果のすばらしい施設で、11月に小学校の音楽会、1月に中高の合唱コンクールを聞いた。ワクワクしながら初めて聴いたクラス合唱は、どれも湘南学園の建学の精神の中の一節である「気品高く」ということを彷彿とさせるものがあり、そのすばらしさに体が感動でふるえた。

そういえば、湘南学園幼稚園の入園式でも、もも組（年少）さんを迎えて、さくら組（年長）さんやすみれ組（年中）さんの最高に可愛らしい歓迎の合唱があったことを思い出した。こうして見てみると、総合学園である湘南学園は、幼稚園から高校まで、歌声が心に響くステキな学園ということができる。この行事をもっとたくさんの人に聴いてもらえないかと思つて、藤沢にはもう少し広い会場はないのか尋ねてみると、広い

会場はあるが、そこは音響効果があまり良くないのだという。それだけ会場にもこだわった芸術性の高い合唱をめざしているということである。

この合唱を、小学校の体育表現まつり、中高の体育祭という2つの走り、踊る身体表現と関連させて見てみると、まったく異質の表現の世界に子どもたち・生徒たちが全身全霊を投入していることに驚嘆する。

私にとつてこの1年は、体育祭や学園祭や合唱等の学校行事を通して、一人ひとりの子どもたち・生徒たちがこんなにも多面的な輝きをみせるものなのかということをつくづく教えられるものだった。その輝きを引き出す年間を通して行われるさまざまな行事のつすばらしさを感じる。私はこのような行事を通して自分の中にそれまで眠っていた個性を見つけ出

しながら、それらを豊かに開花させていってほしいものだと思う。中高生でいうならば、5月の体育祭でエネルギーを爆発燃焼したかと思えば、10月の学園祭では「お化け屋敷」等に熱中し、一転して1月の合唱コンクールでは聴くものの心に響く美しいハーモニーを作り出し芸術性高い音楽の世界を作り出している。合唱を聴いて、私ははじめて湘南学園の建学の精神のいうところの『気品の高さ』が

こういうところに現れるのだということがわかった。それは春風のように会場いっぱい聴衆の心を吹き抜けていったにちがいない。

湘南学園の学校行事は、建学の精神の冒頭にある「個性豊かに」ということを、その個性に内在する多様な可能性を具体的に引き出していくものとして一貫して構成されているように感じる。私は、そこに湘南学園の素晴らしさがあ

るように思う。

その一つひとつがキラリと輝く宝石みたいなものであることはいうまでもないのだけれども、その上に幼稚園・小学校・中学高等学校と総合学園らしく一貫して子どもたちのさまざまな表現活動を豊かに育むものになっていることに気がつく。それらは、いずれも「個性豊かに」、「気品高く」とうたわれた建学の精神を具体化する壮大な教育計画の一環をなしていると感じられる。よく湘南学園の総合学園としての魅力とは何かということが話題になるが、私は、そのひとつとして豊かな表現活動を育む学園ということをあげてみたい。それは、私学として公立学校にはない独自の教育を創造していることを示すもので、ここではふれる紙面がないが、保護者からは見えない教育創造をめざす教師集団の地道な研究活動とともに学園の存在意義のひとつを示すものになっているように思われる。

湘南学園てらこや

PTA会長 辻 彰彦

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

今年度からPTAでは、湘南学園創立80周年に向けた新たな事業の一つとして『湘南学園てらこや』を始めました。

子どもたちに、受身ではなく自ら学ぶ楽しさと向上心を養ってほしいという思いから、自己教育プログラムとも言える『湘南学園てらこや』を始めたいことになりました。

この自己教育プログラムの中で、「能動的に考える」機会を多く作り、自分自身にあったものを見つけ、自発的に動き出してほしいと考えています。

スタートにあたり学園長先生をはじめ数多くの先生方に、ご指導を頂きました。

日頃の授業とは違った角度から教材のおもしろさを学んだり、体感すること、受講する対象者の年齢の枠を広げることができます。

しかし、幼稚園から高校までの、湘南学園に関わる全ての方を対象とする講座内容を決定するのは非常に難しいことです。世代を超えて同じ教え

を受けることができ様々な企画は、講師の方々の事前努力によって成り立っています。

おかげさまで本年度は6回実施することができました。

延べ300人の、自ら学ぼうと足をはこんでくれた子どもたち、卒業生、保護者及び教職員の方々にとって、自己の向上の機会になったのではないでしよつか。

そして学園の子どもたちみんなが交流できる楽しい場であると同時に、卒業生がいつでも帰ってこられる、そんな場にしていきたいと考えています。

次年度以降も皆様のご協力を頂きながら『湘南学園てらこや』を継続していければ幸いです。

険しい道

新しい道を歩み出すみなさんは希望に満ちていることでしょう。

しかし、この先必ずしも平坦な道ばかりであるとはかぎりません。

苦しみは、新しい生き方を見いだすようにと伝えている時もあります。物事が行き詰まった時、今までの生き方に無理があったと考えてみるのも有効かもしれません。

悪くなるばかりの現実と向き合ったり、困難に立ち向かうということは簡単なことではありません。とりわけ人間関係では、相手を責めたり、過去を悔やんだり、不幸な自分を嘆いてばかりいることになりがちですが、それでは見通しがつきません。また、人に頼んでも傷を深めるだけ、ということもあります。

このような状態から立ち上がるには自分自身の力が必要だと言えます。そして、それらを自分自身の力で乗り越えた時に、真の人間力が養われるのだと思います。

成功するためには

人は誰でも自分の心の中に持つている、自分だけのものさしで善悪の判断をし、物事に賛成したり反対したりします。

自分の寸法と違うと拒絶したり、聞く耳をもたなかつたりもします。

自分の考えを持ち、ぶれないことはとても大切なことです。見方を変えて他人のものさしを理解することも時として重要なことです。

ただ立ち止まっていたり、一つのものさしに固執し過ぎれば、好転するはずのものも、その機会を失つたりします。物事が好転するか否かは、結局、ものの見方、考え方次第なのではないでしょうか。そういう意味では、成功も失敗も、人生の裏表も我々一人ひとりの心の中にあると言えるのだと思います。

湘南学園てらこやの役割

卒業した学校になつかしさを求めて訪れる、というのはよくある話です。『湘南学園てらこや』は学ぶことを通して恩師や、母校の後輩たちと共にそれぞれの価値を高めあうこともできる場です。

人間の価値とは、決して諦めない気構えにあるのかもしれない。

人生は「七転び八起き」だから何度でも立ち上がる気構えを持って歩んでいってほしいものです。

『湘南学園てらこや』はそんなみなさんの前向きな気持ちも応援していきます。

人間、誰でもいつか自分は幸せだと思える日が来ます。

幸せの順番は必ず巡ってくる信じ、困難に負けず前向きな気持ちで、諦めない気持ちを持って生きていくことを望みます。

今後のみなさんの一層の活躍を期待してやみません。



いま、学園同窓会は

同窓会会長 佐藤 允

数年前、学園同窓会は

新たにスタートした

我々はベクトルを合わせて

そして動き出した

「創立八十周年を目指し

風を起こす！」と

幾つかのトライアルを経て

確実に二年、二年、

一つ、冷海域は暖かく

温暖域になっていく

そして、肌を感じると

まわりに風が起きてきた

素晴らしい仲間たちの協力

学園力が少しずつ

パワーアップしてきた

同窓会は学園と共に、戦前から存在するが、その道のりは山あり谷あり。今回の再スタートは二〇〇七年、卒業生有志を中心とした湘南初の「平尾昌晃チャリティコンサート」の成功が新生同窓会の「風を起こす！」口火を切る。

二〇〇八年、活性化、組織化を目指した新常任幹事会がスタート。足元にある問題点、今後の課題等、中期の方針、骨格づくりから始まっている。いかにして「学園力」を強化しブランドを光らせるか。

二〇〇八年度からのトライアル。

具体的活動に入る前、理事会、PTAへのプレゼンテーションを第二步に、浸透、協力を図ることから始まりました。

学園の七十五周年行事に協力。過去の経験から「よりよいコミュニケーションを通じより良い理解と相互協力」に向け舵をきる。

二〇〇九年春、卒業生OBによる国際化をテーマに「第二回松ぼっくりフォーラム」講演、第九回生、外務省OB朝海和夫氏、キャタピラーシヤパン社長、平野昭一氏）を開催。

情報発信の重要な柱である同窓会ホームページを「新、機関紙」SEASIDE七五周年記念号」を発行。

十月の学園祭では、恩師である元日本版画会会長、「大久保坦先生遺作展」、十月にホームカミングデーをアリーナで「ハワイアンフエスティバル」、中高ホールでは「ジャズライブ」学園長、小学校校長飛び入り。昼はOB経営の模擬店等、スタッフ一同大活躍により存在を高める年になった。

二〇一〇年春、同窓会主催、学校法人・PTA・後援会共催「第二回松ぼっくりフォーラム」(第二回生、森ビル社長、森 稔氏)チーム湘南学園の誕生。高校生、PTAも含め約七百名参加。

八十周年の企画。「先輩の生き方に学ぶ」をテーマに大きく風が起きて来た実感がする。

秋の学園祭には、「五十年目の宿題」(中高七回卒OB・OG十七名傑作が展示され現役教師方も見学好評でした。

今年、二〇二二年、湘南学園八十周年実行委員会への参加。

七月二日には総会を開催。同日「第三回松ぼっくりフォーラム」を学園と共催する。学園はじまってきた以来の中高合同のキャリア教育として元NHKプロデューサーである第九回生、鈴木健次氏による、先輩の生き方に学ぶ「インタビューに学んだ人間の魅力」(仮題)を予定しており、氏の中広い経験から興味ある講演を期待して戴きたい。

秋の学園祭には「五十年目の宿題」の進化した展示でより楽しめるものと計画を練っています。

学園八十周年企画の中に歴史資料館(案)を提案している。単なる過去教育資料展示室や映像ではなく、世代を超えた多様なOB・OGと在校生や先生方、部活の先輩・後輩・PTA等親しくコミュニケーションをもてるミーティングスペースの設置など、チーム湘南学園がイノベーションをさらなる発展に結びつける、大きな風を起す予感がする。

湘南学園懇親会



森さんを開んで・チーム湘南学園誕生
写真右から
後援会会長 富田良男氏
同窓会会長 佐藤 允
理事 長 高尾 信氏
森ビル社長 森 稔氏
学園長 仲本正夫氏
PTA会長 辻 彰彦氏

学園と同窓会は太陽と月の関係だ
太陽が輝けば、月の光は増す
湘南海岸は澄み渡る
青空のもと新たな歴史へと
湘南学園は歩み続ける
創立八十年から百年に向けて
同窓会はパートナー
永遠の存在なのだ

子どもたちによる、
子どもたちのための

《がちゃぺたらんど》へ

ようこそ！

幼稚園 稲川 仁美

湘南学園幼稚園では・・・

○友だちと一緒に「ワイワイガヤガヤ」楽しくおしゃべりしながら、一人ひとりが考えを出し合っているイメージを膨らませていく姿
○「がちゃがちゃぺたぺた」と、小さな手を動かしながらつくります

そんな子どもたちの姿から、造形展のことを《がちゃぺたらんど》という名称で呼んでいます。

作っては遊び、壊れては作り、また遊び・・・そんな子どもたちの思いがたつぷりとつまった作品を、今年度は十一月二十八日(日)に見ていただきました。

子どもたちが作り上げた作品の数々は、やらされて作るのではなく、仲間とともに遊び、生活をするなかで培ってきた「やってみよう」とする気持ち「できた！」という喜びや自信が土台となって表現されています。大人顔負けの真剣な表

情、驚きのアイデアの数々に、改めて子どもたちの力の素晴らしさを感じます。

今年度の取り組みの中では・・・

年少組(3歳児)は、「一人ひとりが作ったり描いたりする楽しさを味わう」ということにねらいを置いて、初めての色、素材、使い方などに触れ、喜んだり、発見したり、見立てたり、驚いたり・・・、初めての入り口となる3歳児だからこそ、まずは楽しい！仲間と一緒にやるともっと楽しい！と子どもたちが感じてくれることを大きな柱にして取り組んできました。



部屋いっぱい広げた大きな紙に、裸足になって、ダイナミックに絵の具遊びをしたり、4原色の絵の具でじっくりと自分の顔を描きました。また、色とりどりの毛糸をグルグルと糸巻きをして作ったフォトフレームや、小さな手を動かして、かわいいおだんごオブジェを作りました。

年中組(4歳児)は、「一人ひとりがいろいろな素材に触れながら、作ったり描いたりする楽しさを味わう」ということにねらいを置いて取り組んでみました。

新たな素材との出会いという点においては土粘土を導入。自分の顔をテーマに「まるめる・のばす・つぶす・ちぎる・つまむ・ねじる・くつつける」といった技法を繰り返しながら、子どもたちの作り出した形そのままが残る作品となりました。また、一本一本まつ毛や歯をくつつけていく細やかなものや、太い眉毛や唇をダイナミックに表現しているものもありました。どの顔もそれぞれ個性豊かに仕上がりました。



絵画では、墨を使って大きな紙に全身をのびのびと描いていきました。土粘土とはまた違って、一人ひとりの力強さが伝わってくるような作品となりました。



墨で描こう!

結んで、あそぼう!



色水の霧吹きあそび



年長組(5歳児)は、「ひとつの目標に向かって仲間と力を合わせながら作り上げる喜びを味わう」「新しい素材に触れ、新しい技法に挑戦し、自分の力で作り上げた喜びを味わう」というねらいのもと、年長組六十人が力を合わせて「おまつり」水族館、動物園、乗り物が集まった「ダブルさくらランド」を作りました。

製作過程の中でも「いらっしやいませ」と年長児が年中・年少児を呼び込んだり、シヨウを見せてくれたり、作っては遊び、壊れては作り直すことを繰り返しながら、楽しんで取り組んでいました。

少し大掛かりな作業もみんな力を合わせて！細かい部分もみんなアイディアを出し合って！と、仲間と力を合わせるということの楽しさを味わいながら、自分の力を発揮していた子どもたちでした。



また、個人製作は、1学期に雑巾縫いを経験したことを土台に、針と糸を使ってマイマスコットを作りました。マスコットの形・模様は自分でデザインし、ひと針、ひと針丁寧に縫い上げていきました。

絵画では、子どもたちが毎日お世話をしているチャボを描きました。年長児ならではの観察力と、細かい視点、力強い表現は、今にも動き出しそうな程、迫力のある作品になりました。

エコスクール 一年の歩みと今後の課題

小学校 富田 靖子



エコスクール委員会の活動

小学校がエコスクールプログラムに取り組み始め、一年と三ヶ月が経ちました。今年度から児童会の専門委員会の一つに位置づけられたエコスクール委員会は、五・六年の各クラスから選出された二十四人の児童が中心となって運営されています。

エコスクール委員会は、月に一回児童会活動の時間に設定されています。ここでは先月の活動の報告と今月の活動の予定を確認したり、新たな活動の計画を立てたりしています。

日常の活動は三つのグループに分かれて、週に一回昼休みに集まって進めています。

一つめのグループは生きものに関わる活動を担当しています。屋上ビオトープの生きものを観察し、ポスターを作って全校に知らせたり、藤沢メダカを増やそうと、卵から孵化させて水槽で飼うなどの活動に取り組んできました。

二つめのグループは、落ち葉を腐葉土にする活動を担当しています。掃除の時間に外掃除を担当する児童が、集めた落ち葉を落ち葉タンクに入れてくれます。また、

園芸委員が草花の手入れをするときに枯れ草なども同様です。落ち葉タンクがいっぱいになると、このグループの子どもたちが校庭の隅や畑に大きな穴を掘り、落ち葉を埋める作業を行います。春に埋めた落ち葉は、冬には腐葉土になり、草花の植え替え作業のときに使われるようになります。

三つ目のグループは、エネルギーや資源の節約に関する活動を担当しています。児童集会で「地球環境とゴミ」の発表をしたり、ペリトボトルのキャップやインクカートリッジの回収を呼びかけるポスターなどを作成したりしています。

壁新聞や集会で活動内容を全校に知らせる活動には、委員全員で取り組みました。

スウェーデン自然学校の先生方と

このような日常の活動に加えて、この一年間にいくつかのイベントも行ってきました。

昨年三月二十七日には、スウェーデンの自然学校（各市が運営する野外体験ができる教育施設）の先生方をお招きして、環境教育についてのワークショップを持ちま

した。前半は大会議室にて本校とスウェーデンの環境教育の取り組みの様子を交流しました。

スウェーデンではエコスクールプログラムに取り組んでいる学校が数多くあり、グリーンフラッグの学校と呼ばれているそうです。各学校では、子どもたちの話し合いという手続きを大切にしていることや活動計画を決め、全校の取り組みに広げているということ、具体的なエピソードを交えて教えていただきました。

後半は、幼稚園の園庭をお借りして、自然学校の先生方に野外での授業を行っていただきました。その場で拾った落ち葉や石などの自然素材を使ってお話をつくったり、園庭に生えている松の木からイメージする言葉をグループのメンバーとつなぎ合わせて詩を作ったり、また、数の計算と鬼ごっこを組み合わせて算数の学習を行ったり、子どもたちも参加しての楽しいワークショップとなりました。

「みんなの消費生活展」参加

七月三十一日には、藤沢市の「みんなの消費生活展」にお招きいただき、エコスクールの取り組みや、「ゴミと海の環境」についての子どもたちの寸劇を発表してしました。

今回で四十三回目を迎えた「みんなの消費生活展」は、藤沢市で環境問題や消費生活について様々

な情報を発信している団体が多数参加する伝統ある催しです。

子どもたちは、みなさんに発表を温かいまなざしで見守っていただき、自分たちの取り組みに対して自信を深めることができたと思います。また、豊かな環境を子どもたちに伝えたいという思いを持った人々が藤沢にはたくさんいらっしゃることを知ることができたことも大きな収穫でした。

FEE 国際本部理事の学校訪問

九月二十四日には、エコスクールプログラムを進めるFEE（環境教育基金）の国際本部理事であるマルコム・パウエルさんと、エコスクールプログラムを支援している香港上海銀行のポール・アレクサンダーさん、FEEジャパンの円谷幸子さんに学校を訪問していただきました。マルコムさんは、設立されて三年目になるFEEジャパンの活動を視察するために来日されていました。

当日は、始めに校内をご案内した後、小ホールでエコスクール委員と五年生の児童が歓迎会を行いました。

始めの言葉、お客様の紹介、子どもたちの歓迎の言葉や歌、そしてエコスクール活動の紹介など、短い時間でしたが盛りだくさんの内容で歓迎の気持ちを表しました。マルコムさんは南アフリカでブリーフラッグ（海岸を対象にしたエ

コラベル)の認証に関わって来られた方で、入場していただく際五年生有志が演奏した「南アフリカ共和国国歌」のリコーダー演奏も含めて、大変喜んでくださったということでした。

フレンドスクールとの交流

十二月に、春に来校されたスウェーデン自然学校の先生から、ハルムスタッド市のエステルゴード基礎学校とフレンドスクールにいただきました。お互いの活動をEメールで知らせ合ってはというご提案に、喜んでとお返事し、十二月末から交流を始めています。

ハルムスタッド市はスウェーデンの南西部に位置する人口五万五千人の都市です。

エステルゴード基礎学校は、創立四十二年、十一歳〜十六歳のおよそ七百人の子どもたちが通っている学校です。二〇〇八年にエコスクール委員会をスタートさせ、既にエコスクールと認定されグリーンフラッグを取得しています。

「生活と健康のよい方法」という目標のもと、車を使わない徒歩や自転車での通学や、校内の環境の美化、資源のリサイクルなど多様な活動に取り組んでいるそうです。

遠い国でのエコスクール活動の様子を知るとは、わたしたちにとって興味深いことです。また、スウェーデンの子どもたちも、わ

たしたちと同じ願い、目的を持って活動をしていることがわかり、エコスクールの活動は世界の人々とつながっていく活動なのだという思いを深めることができました。

他教科や総合学習に広がる学び

他教科や総合学習、学校行事の中でも、環境の視点を取り入れた取り組みが積み重ねられた一年でした。

低学年の自然にふれあう学習、牛乳パックリサイクルのエコはがきづくり、中学年の海やゴミ、水の循環、エネルギーについての学び、環境をテーマにした調べ学習、高学年の有機農法による米作りやエコクッキング、全校児童による交歓会でのビーチクリーンなど、環境に関わる学びは至るところに広がっています。

五年いすず組では、環境について自分たちにできることはないかと話し合い、クラスで廃品などを利用した様々なエコグッズを製作し、PTAバザーの折に自分たちで販売するという活動に取り組みました。

様々な場面での環境に関わる学びが、エアコンの設定温度をちょっと気にするとか、ペットボトルのキャップを集めるとか、今の自分たちにもできる小さな活動が地球の未来につながるという意識を育てることに結びついていてほしいと思います。

来年度に向けて

二月二十五日に四〜六年生が参加する児童総会が行われました。この場でエコスクール委員長の望月雄友さんから、エコスクール委員会の一年間の活動と次年度へ引き継いでほしい内容について報告がありました。次年度は各教室で紙のリサイクルができるようにすることや、園芸委員会とも協力しグリーンカーテンを取り入れることなども実現していきたいと語られました。

四月から新校舎の利用が始まります。自然の採光や通風を配慮した建物に、ソーラーパネルの庇を設けた理科テラスなど環境学習の教材となる設備も備え、環境学習を広げ深める条件も整いつつあります。

この一年間エコスクール活動や環境に関わる学びを、実にたくさんの人々に支えていただきました。

ペットボトルのキャップやインクカートリッジを集めていただいたり、校外学習の引率にご協力いただいた保護者の皆様、また相原農場のみなさんやエコサーファアの堀さん始め、ゲストテイチャーとして授業に参加してくださった皆様他、本当にありがとうございました。ぜひ今後ともエコスクール活動へのお力添えをよろしくお願いいたします。



「学園小学校の改革——これからの実践課題」

小学校校長 寶田宏恭

はじめに

この学園だより十四号がお手元に届く頃には、湘南学園創立八十周年記念事業として取り組まれている新校舎の第一期工事が、ほぼ完成していることと思います。

この校舎には4学年分の教室と特別教室、そして今後小学校教育活動の中心基地となるメディアセンターが設置されています。

このメディアセンターは図書室とPC機器、情報端末などがワンセットになって配置されており、PCリテラシー、メディアリテラシーを学ぶことはもちろん、教科学習、総合学習、また環境教育（エコスクール）の学習基地になります。またこのメディアセンターに教職員、子ども達の学びの足跡をデータベース化し、それらを構築していくことを通して、将来に渡ってその機能を向上させていくこととなります。

現在エコスクール活動を通じて

て、スウェーデンの小学校から交流の申し出が来ており、ごく近い将来このメディアセンターで子ども達が直接外国の子ども達と交流する姿も見られることになるでしょう。

また各教室には電子黒板が設置されています。教室前の廊下スペースにも学習用のPCが設置される予定です。

新校舎の設計を監修された、日本の学校建築の第一人者である東洋大学の長澤悟教授は、学校建築自体が一つの教具であると主張されていますが、このように教具そのものが大きく変わるわけですから、当然教育活動そのものも変わることが求められているわけです。

現在小学校では新校舎建設を一つの契機として、小学校が抱えている様々な問題、課題を改めて見直し、時代の変化に応えるための改革に着手することになりました。以下その要点をご説明させていただきます。

いただきます。

一、独自の理念を持つ私立小学校として。

湘南学園は一九三三年湘南鶴沼の地に誕生しました。小学校から出発した湘南学園は七十余年を経て、幼、小、中高を有する総合学園として発展してきました。

他の私学同様その間には様々な困難、課題があったわけですが、父母と教職員が共に作る独自の理念を持つ私立学校として、現在に至ったわけです。

しかし皆様ご存知のように私学経営をめぐる状況は、少子化、経済不況等の中大変厳しい環境にあり、本校もその例外ではありません。そうした厳しい環境であればこそ、独自の教育理念を明確化し、良い意味で公立小学校、他私学との「差別化」を図り、何より、その教育実践の質を高める努力、実績こそが求められています。

大正自由教育以来の本校の良き伝統を引き継ぎつつ、時代の変化に対応できる学校作りが求められている以上、課題を直視し、具体的に改革の展望を切り開いていかなければなりません。

二、子どもたち一人ひとりに「豊かな学力を保障する」。

「豊かな学力」とは何でしょう。この二年間の授業研究で見えてきたのは次のことです。

①わかることに徹底的にこだわった授業作り。

本校の追及している授業の際立った特徴は「なぜそうなるのか」にこだわった授業です。ドリルやスキル学習も大切ですが、何より大切なことは子どもたち一人ひとりが「なるほど」とわかる授業です。タイトルや具体物、生活との結びつきを大切にした算数の授業。一文一文を丁寧に読みあい、文法なども押さえた国語指導。こうした授業作りはこの二年間の授業研究から見えてきた成果でした。今後このことを子どもたち自身が学びあう授業にまで高めていかなくはなりません。

②「豊かな学力」は子どもの生きる力になる。

先日行なわれた四年生の国語の研究授業では、子どもたち同士の学びあいを通じて、一人ひとりの子どもたちの表情が紅潮し、高い

集中力が持続する中で「せりあがる授業」が目の前にたち現れました。「わかる授業」は子どもたち一人ひとりの「生きる力」になることを確信した一瞬です。

私たち小学校教職員は、何よりもまず私たち自身が教育力を自ら高めることが求められていることを自覚しています。そしてその積み重ねの中で二〇二二年度「湘南学園小学校公開研究会」を開催し、私たち自身の教育実践を世に問うことを決意いたしました。

三、一人ひとりのニーズに応える学習、発達支援。

今回の改革にあたって重視しているのは一人ひとりのニーズに合わせた学力補充の取り組みをどう進めるか、ということです。

その為に補習・T T指導・少人数指導・家庭学習の定着などの検討を具体的に進めて行きます。また生活指導とかかわって、必要な学習規律の育成、家庭と連携した自律的な学習習慣の定着にも取り組んでまいります。

校内カウンセラーを置いて二年になります、ますますその役割は大きくなっています。今後カウンセラーの複数配置により、より充実した体制になります。児童支援だけでなく、子育て支援の為に、またカウンセリングガイドを大切にされた教育活動推進の為に

も、大きな柱になります。

四、本校の教育的伝統を更に発展させる。

本校には他校と比較しても際立った「豊かな体験学習」の取り組みと、その蓄積があります。

しかしこの「体験学習」をどう教科学習等と結び付け、「豊かな学力」形成につなげていくかが課題であると、以前から指摘されてきました。

今回の改革ではこの体験学習を、本校独自の「総合学習」として再編成し取り組みを進めることになりました。すでに従来取り組み始めてきた五年生の「スキー教室」を、「雪の学校」として社会科学等と結び付けた総合学習として再編、発展させることになりました。三年で「海の学校」四年で「山の学校」そして五年で「雪の学校」と、一貫し、充実した総合学習実践を切り開いてまいります。

今号にも紹介されていますが本校は「エコスクール」として、今年春中にもFEE（国際環境基金）の国内初認定校になる可能性があります。もし認定された場合、各界から非常に注目されることになります。この取り組みを本校の特色ある教育活動として育てていくことは、本校の今後を考えた時に重要な要素になるものと考えています。

ます。

五、充実した生活指導を通じて、良識ある市民を育成する。

「一人ひとりの子どもたちに豊かな学力を保障する課題」と共に最重要視しているのは、充実した生活指導を通して市民的道徳を身に着ける課題です。

電車通学時の車内マナー等の市民的道徳から始まって、建学の精神（「個性豊かにして身体健全気品高く、社会の進歩に貢献できる 明朗有為な実力のある人間の育成」）にのっとった民主的社会的の主体的形成者としての人格を育てる責任があります。その為に生活指導の充実だけでなく、本校独自の道徳教育の在り方について追求して参ります。

また生活指導関係の研究と、児童理解の取り組みを強め、いじめなどのない、学校にくるのがより楽しくなるような学校づくりを目指します。

おわりに

ここまで示した課題のほかに、中高との内部進学制度の見直しと改革、幼稚園とのカリキュラムも含めた連携の強化、保護者にも、子どもたちにもわかりやすく励みになる教育評価と「のびる芽」の改善、などの課題があります。

す。また保護者の学校参加について、PTAと力を合わせ、本校の教育的伝統であるPとTが共に作りあげる学校という理想を、より具体的に追求していく必要があります。

こうした課題の推進のために、「学園は一つ」を合言葉に中高、幼稚園との連携強化。PTA、保護者とのより強い信頼、協力関係の構築、また同窓会、後援会との協力、連携などを通じて一歩一歩改革を進めていきます。



若者達よ！ でっかい夢を抱き 大きな世界に羽ばたいてくれ！

国際教育委員会 荒木伸浩

「私にとって、ここでのまさにほんの1秒1秒だけでも、とつても貴重な時間なんです。ここで出会うもの全てが新鮮で、胸がワクワクしちやいます。」

これは、オーストラリアセミナーに参加した高1の女子生徒が、セミナー期間中に目をキラキラさせながら語ってくれたことです。

海外への扉を開くということは、とりわけ、これからの将来のを切り開こうとしている若い世代にとつては、人生の開拓に多大なる影響を及ぼす大変貴重な経験になると思われまふ。昨年放映されていたNHK大河ドラマの『龍馬伝』でも、坂本龍馬が「わしは世の中を見てみたいぜよ！」と言つて、19歳の春に江戸に剣術修行に出て行きました。こうした青年の心から湧き出て来る「自分がこれまで触れたことのない世界を知りたい！」といったニーズは、その後のその子の学習への大きなモチベーションとなりうるでしょう。そして、こうしたニーズに応え、世界を見るチャンスを子ども達に出来るだけ多く用意してあげることが、僕達大人の大切な役割だと思ひます。そのチャンスの中で子ども達が得た学習への強い動機は、必ず自らの夢を叶える原動力となることでしょう。

【カナダセミナー】

「中3の時にカナダセミナーに参加したことがきっかけで英語が大好きになり、そこから英語の成績がぐんぐんと伸びたんです。まさに私はカナダセミナーの申し子なんです。これからも学園でああいう国際交流みたいな企画をどんどんやってほしいですね。」

これは、一昨年の8月のことでした。Tooieで875点のハイスコアをたたき出し、高校卒業と共に上智大学の文学部英文科に進学した学園の卒業生からの言葉でした。その時、僕は彼女に、「帰国子女でもないし、長期の留学経験があるわけでもないのに、どうしてこんなに英語が出来るようになったの？」と尋ねたんです。すると彼女の口からは、間髪入れず、先のような返事が飛び出して来たのでした。思つてもみなかったこの返答を耳にして、僕はとても嬉しい気持ちになりました。また、これを語るその生徒自身も「カナダセミナーにもう感謝感謝ですよ！」と、これもまた嬉しそうにしていたことが大変印象的でした。

カナダセミナーもお陰様で来年度で7回目を迎えます。昨年末に行われた来年度セミナーの説明会にも、定員を大きく上回る数の生徒・保護者の皆様にお出で戴きました。その様子を御覧になられた保護者の方から山田校長に次のような要望

が寄せられました。

「うちの子は、今年のカナダセミナーに参加してとてもいい経験をさせて戴きました。うちの子だけでなく、一緒に行ったお友達もみな『カナダセミナーは素晴らしい！』と言っています。来年のセミナーにも大勢の方が申し込まれるようですが、是非参加希望者全員をカナダに連れて行ってあげられるようにして下さい！」

今回は、セミナー参加希望者全員との面談を行いました。子ども達はみなとても意欲があり、また、保護者の方からこうしたリクエストを戴いたこともあつて、来年度は、運良く、希望者全員をカナダに連れて行けることになりました。

来年度もまた、「カナダセミナーは最高だったよ！」という子ども達からの嬉しい声が聞かれることを期待しています。



【オーストラリアセミナー】

昨年7月に学園の高校生14名と一緒にメルボルンのノックス校でのオーストラリアセミナーに参加させて戴きました。このセミナーを通じて、まず痛切に感じたことは、「ノックス校との交流は湘南学園のまさに宝である」ということです。

ノックス校は、大変素晴らしい学校です。この学校には、湘南学園と同じように、幼稚園から高校までの4つの学校があります。しかし、学園や日本の学校とは大きく異なる点があります。それは、ノックス校には入学試験がないということです。ここでは、日本の学校のような学力試験ではなく面接を行い、子ども達がノックスの校風に合うかどうかを判断して入学の是非を決めます。その結果、様々な子ども達がこの学校で生活しています。

「入学して来る子ども達の学力は様々ですが、それぞれの子ども達の学力を伸ばし、子ども達を自立させ、立派に成長させていくことが学校や教師の仕事です」といった確固たる信念が、この学校では貫かれています。そのためノックス校では、子ども達を退学させることは決してしないそうです。この言葉を聞いた時、まさに僕は目から鱗が落ちました。

中学三年研修旅行を終えて

中学三年学年主任 志賀 潔

昨年の十二月九日から十三日までの五泊六日で中学三年生の研修旅行が行われました。一昨年度から訪問先を広島県吉和から山口県周防大島に変更となっています。また、昨年度は本校の中学校としては初めての民泊を行い、生徒達の非常に高い評価がありました。今年度も引き続き民泊を実施するにあたり、周防大島から二泊ではどうかというお誘いがありました。学年会では、昨年度は民泊先で過ごす時間が短かったことから二泊で実施する計画をしていきました。

今年度は、次のような行程で実施しました。

- 第一日目 新横浜出発
- 午後 広島にて平和学習
- 第二日目 宮島・広島市内の班別行動
- 第三日目 周防大島にて体験学習 民泊
- 第四日目 各ご家庭での体験学習 民泊
- 第五日目 各ご家庭とお別れ 離村式 帰途

初日の平和学習は、毎年のごとくですが被爆体験者の方から当時のお話をお聴きしています。今年度は九名

の方にお話をお聴きする事ができました。生徒達は初めて聴く原爆投下時の様子などの話に衝撃を受けていました。



三日目から周防大島での生活となります。

午前中の体験学習は、地引き網漁、カヌー、竹のぼんぷら飯、武者職染色、石風呂、かき打ち、郷土



料理、座禅、かいもちの九つの体験に分かれて行いました。生徒達の多

くは日頃やったことのない体験だけに、楽しく取り組んでいました。

午後から民泊先のご家庭での生活になりました。周防大島本島四十五家庭と、本島の北にある浮島（うかしま）十七家庭の昨年より多い六十二家庭にお世話になりました。民泊期間中はあまり生徒と接触をしないようにするつもりでいました。しかし、浮島では島全体が小さいこともあり、教員が生徒と接触しないことが難しく、浮島にいる生徒全員に会ってしまったそうです。本島では生徒達が広範囲にお世話になっていることもあり、あまり会うことはありませんでしたが、それでもいくつかのグループに会ったときは、民泊先のご家庭の方達と楽しくしている様子を見ることができました。昨年度は二泊という事もあり、全員が最後まで民泊先で過ごせましたが、今年度は二泊で、見知らぬ人の家で長い時間を過ごすには耐えられない生徒が出てくるのではないかと思っていました。結局誰からも連絡はありませんでした。

最終日、生徒達は各ご家庭で朝食を済ませ、離村式の会場に集まりました。浮島では樽見港と江之浦港で、本島は東和総合センターで行われました。たった二泊の事でしたが、生徒達は各ご家庭で良くしていただいたのでしよう、涙を浮かべながらいつまでも別れを惜しんでいます。帰りのバスの中では、久しぶりに会

った友達と積もる話をしたりしていました。新幹線の中で生徒に話を聞くと、全日程を民泊にしても良かったといっている生徒もいるくらい、多くの生徒にとっては民泊が非常に楽しかったようでした。きつと帰ってから家の方に研修旅行での話をしたのではないかと思います。

その後も民泊先の方とお手紙やメールの交換などを行っている生徒もいるようですし、この春休みには周防大島を訪れたいと言っている生徒もいました。

この研修旅行での平和学習、体験学習や民泊などで多くの人にお世話になり、多くの人の優しさに触れきたことは、子ども達の大切な思い出となったことと思います。



「高2研修旅行について」

高2学年主任 吉川謙太郎

高2学年は、10月25日(月)から29日(金)にかけて研修旅行(4泊5日)に行ってきました。コースは5つ：北から「北海道」「北陸」「関西」「西九州」「沖縄」です。

「事前学習をきちんと行って、『何のために行くのか』・『何を観に行くのか』ということを理解した上で出発しよう」という学年のコンセプトのもと、それぞれのコースで様々な「学び」の場面がありました。活動のほんの一部を、ごく簡単に紹介します。

「北海道」では、酪農農家を含む民家での民泊を実施しました。体験を通じて「食」への関心を高めることになりました。一足はやく、雪もみました(初雪！)。



「北陸」では、COP10に因んで、里山を知ること大きなテーマに掲げ、新潟、富山、石川を巡りました。残念ながら天候には恵まれませんでした。日本の自然や伝統、農家の方々の人情などにふれることができました。小雨の中、カエルの大合唱の中でみた美しい棚田の風景は絶品でした。



「関西」では、京都府・・・といっても日本海側の丹後地方における「伊根の舟屋」に注目しました。そこに宿泊もし、とても貴重な体験をしました。また、舞鶴では「引揚げ」を通し、戦争の一端を学びました。



「西九州」では、過去にも何度かお世話になっている長崎県の青島で民泊を実施し、ゆったりとした濃密な時間を過ごしました。長崎の多様な自然、歴史、生活文化を知ることができました。



「沖縄」では、独自の文化や豊かな自然、そして戦争の傷跡などについて、肌で知りました。台風の影響が心配されましたが、ほぼ予定通りにできました。



生徒諸君は、仲間と寝食を共にしたことが思い出の大半になっているかもしれませんが、それはそれでよいのですが、それに加えて、「研修」旅行で学んだことを忘れずに、折にふれて思い出してほしいと思います。自分たちにとつての非日常が、他では日常であることにも思いをはせて、自らの視野を広げるための一助にしてもらえればうれしいです。

最後になりましたが、この旅行を通じてお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。

学校法人から

【理事会報告】

- センターエリア3階中会議室
- 第6回定例理事会 9月25日
- 第7回定例理事会 10月23日
- 第8回定例理事会 11月13日
- 第5回臨時理事会 12月4日
- 第9回定例理事会 12月18日
- 第10回定例理事会 1月22日
- 第6回臨時理事会 2月12日
- 第11回定例理事会 2月23日

【主な議題】

- 幼稚園保育時間の変更について
- 創立80周年記念事業実行委員会について
- 学校検査受検結果について
- 小学校建設備品発注について
- 平成23年度予算作成について
- 就業規則の改正について
- 教育費援助の適用について
- 個人情報保護に関する規程の整備について
- 内部監査報告
- 学園広告看板の移設について
- 私学事業団経営相談会について
- 小学校改築工事に係る解体工事のスペース対策について
- 2010年度第2回補正予算について

教育費貸与制度について

以前、学園だよりでご紹介しました湘南学園教育費援助制度は、教育費貸与制度と名称を改め、内容も一部修正されましたので、新しい制度の要点を改めてご案内いたします。本制度の適用を希望される方は事務局までお問い合わせください。

【湘南学園教育費貸与制度の要点】

- 対象：学園に1年以上在籍する幼稚園児・小学生・中学高等学校生徒の保護者(人数は予算の範囲内とし、10名程度となります。)
- 申請：年間を通して受け付けます。申請窓口は法人事務局です。
- 認定基準：神奈川県私立学校生徒学費緊急支援補助金の支給要件(会社都合による退職(定年、任期満了は除く)、被災・倒産(破産)によらない廃業は除く)、死亡、離婚(別居は除く)、障がい認定、病気等による3ヶ月を超える長期療養、その他理事会が判断する事由)と所得基準(最も緩やかな高等学校家計急変Ⅱ(平成23年度は一例として4人家族の場合、所得合計額が59.4万円未満)を採用します。申請者には県の補助金の申請もして頂きます。

【評議員会報告】

- センターエリア3階大会議室
- 第3回評議員会 9月25日
- 第4回評議員会 1月22日

【主な議題】

- 平成22年度第1回補正予算について
- 小学校改築工事の進捗状況について
- 学園創立80周年記念事業について
- 平成22年度第2回補正予算について
- 平成23年度重要事業について
- 同窓会入会について
- 学事報告

○誓約書の作成…認定後は、別生計の連帯保証人付き誓約書を作成して頂く必要があります。

○貸与年数…所属学校等卒業まで最大3年間(1年ごと更新)です。

○貸与額…「授業料」がゼロとなるよう県の補助金支給額との差額となります。

○貸与の方法…金銭の授受を行わず、校納金から貸与額を減じた額を銀行振込により納入して頂きます。

○返済…25歳の誕生日の3月末日までに、原則分割返済です。

○借用書(返還誓約書)の作成…貸与完了時に連帯保証人付き借用書(返還を誓約するもの)を作成していただく必要があります。

□その他…所定の用紙は事務局にあります。ご不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

始業式・入学式の日程

【4月】

- 7日 中高 始業式
- 8日 小 始業式
- 9日 中学 入学式
- 11日 小 入学式
- 14日 幼 始業式
- 14日 幼 入学式
- 14日 幼 入園式

